

www.npo-showa.net/station/ship



子育てステーション世田谷
おでかけひろば SHIP (世田谷区委託事業)

4月のかるがも便り Vol. 65



東日本大震災から1年がたちました。緊急避難時は、お子さまをおんぶして移動します。SHIPでは「おんぶひも」を常備していますので、おんぶの仕方が分からない方はスタッフにお声かけください。SHIP内では、各自ポシェットをご用意いただき、貴重品は身につけてお過ごしいただくようになりました。皆さまのご理解ご協力をお願い致します。



子育て「ママ」の時間」(第六十回)

今月のイベント・講座

『乳幼児に受け入れられる演奏って？』

洗足こども短期大学准教授 / 洗足学園音楽大学講師
昭和女子大学オープンカレッジ講師 秋山 徹さん

私は大学で子ども向けの演奏会を制作するゼミナールを開講しており、子ども達に生演奏を聴かせたり楽器の体験をさせよう！という私の呼びかけに賛同して集まってくれたメンバーと共に、様々な場所で色々な活動を致しております。

私が常日頃、学生達に言っているのは、「乳幼児に受け入れられる演奏を目指そう！」ということです。乳幼児の時期には本能的に、美しいものや、面白いものに対して興味を向けるものです。ところが大人になると、これは特に日本人の気質でもあります。お義理の拍手や、寛容なる耳と心？で音楽鑑賞するようになるのです。(たとえ、それがどんなに忍耐と試練を要する、退屈かつ過酷な演奏であっても・・・)

しかしながら子ども達は、そのような事は一切しません。つまらないと判れば、すぐにそっぽを向き、目の前から去り、そしてお構いなしに騒ぎ始めます。すなわち、一番厳しいお客様でもあり、批評家でもあるのです。

そう言う私も、こちらでの演奏の際に少し歌い始めたところ、突然、子ども達がまるで輪唱のように、次々と泣き叫び始めました。会場は笑いに包まれ、泣きだした子どもを抱いているお母様方も困った様子でしたが、私は内心、満足していました。

こちらでの演奏会にご来場頂いている大多数の乳児の皆さんの場合は、音の刺激は「泣く」といった本能的現象にも現れます。モーツァルトの音楽を聴くと、脳波のアルファ波が増加し、心もリラックスして心地良い眠りにつく事が出来るという話は有名ですが、乳児にとって心地良い演奏には「心地良い眠り」だけではなく、「泣き叫ぶ」事も、もしかしたら「ブラボー！！！」と言ってくれているのかも知れないのです。(ただ、私には本当に「ひっこめ！！」と言っていたのかも知れませんが・・・)ですからご来場のお客様には、「どうぞお子様が泣き叫んでも、お気になさらずに」と申し上げている次第です。

そのような訳で、乳児は演奏を通じて音楽の本質を探る事の出来る最高のお客様でもあり、昨年より大変お世話になっているこちらでの活動も、演奏家の卵の学生達にとって、大変有意義な学びの場となっています。この出逢いを心から感謝し、日々育児をされているママやパパにも音楽で憩いのひとときを、今後もお届け出来れば幸いです。

●絵本の部屋 乳幼児親子対象

大人も楽しめる絵本の読み語りです。赤ちゃんと一緒にどうぞいらしてください

4月5日(木) 10:40~11:00 (無料・申込不要) 講師:三澤葉子さん



●お誕生会 申込受付中!

昭和女子大学で保育を学ぶ学生によるお誕生会(お子さま1人につき500円・事前申込20組まで)

4月14日(土) 13:30~14:10 開場:13:10 於:昭和女子大学80年館2F・2L37教室

●ふれあいトーク会『毎日の離乳食どうしてますか?』父母対象

4月17日(火)11:00~11:40 (無料・当日先着10組まで) ファシリテーター:中島則子(栄養士)

●えほん TIME 乳幼児親子対象

昭和女子大学オープンカレッジ『朗読』講座受講ボランティアの読み語りです

4月20日(金) 14:50~15:00(無料・申込不要)

●子育て講座① 父母対象 申込:4月9日~ 『新しい家族が増えたとき、共に育つには』

2人以上のお子さんをお持ちの方、2人目をお考えの方、大学の先生と一緒に学びあいませんか

4月23日(月)10:40~11:20 (無料・事前申込30組まで・託児有料先着10名 500円)

講師:昭和女子大学 石井正子准教授(臨床発達心理士)

場所:昭和女子大学80年館2L36教室 (隣室で託児をします。10分前までにいらしてください)

●『世田谷区のお仕事相談コーナー』 父母・祖父母対象

世田谷区産業振興公社のキャリアカウンセラーが、お仕事の個別相談に応じます。

4月26日(木)14:00~15:00 (無料・申込不要)



◎有料のイベント講座については、登録会員が事前に料金を添え SHIP 受付に直接お申してください。

一旦納入された参加費の返金はできませんのでご了承ください。当日欠席の方はご連絡ください。

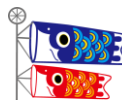
5月のお誕生会 申込:4月21日(土)~

昭和女子大学の学生が企画実施するお誕生会へぜひご参加ください!

5月生まれでない方もご参加いただけます。ご家族みなさまどうぞ！（事前申込 20 組まで）

5月19日(土)14:00~14:40 開場:13:40 於:昭和女子大学80年館2F・2L37教室

*参加ご希望の方は、お子様1人につき参加費500円を添えて SHIP 受付にてお申してください



卒業おめでとう

お誕生会を担当した学生が今春、保育士・幼稚園教諭になります！

学生から皆さまへメッセージをお届けします

私が子ども研究会に加入したのは2年生の頃でした。お誕生会本番までの予想以上の多忙さに驚き、ドタバタしながら迎えた当日は、時間が過ぎるのがあつという間だったというのと、来てくださった親子さんの笑顔を見て、充実感を味わい、また次回もやりたりと思ったことを覚えています。お誕生会の企画は、季節感を織り交ぜたり子どもの発達過程をよく考慮しなければならず毎回苦労しましたが、お誕生会をしていると、子どもの好きなものや興味を惹かれるもの、できることとまだ難しいことが分かってくるので、直接子どもと関わることが大切なのだという事を学びました。(子ども研究会4年 学生)

お誕生会企画の際には、メンバーの意見を聞くことで、自分では思い浮かばなかった考えを知ることができ、さまざまなアイデアをもつことは、自信にもなるし強みにもなると思いました。子ども研究会の活動では、メダルやプログラムの制作を担当しました。自分の作ったものが子どもたちやお母さんの手に渡り、少しでも喜んでもらえたらと想像しながら、楽しく制作に取り組みました。当日は、準備が完璧であっても状況に応じた対応が必要で、お誕生会が終わるまで緊張しましたが、実際に子どもたちと触れ合いながら、お誕生会を進めることができるので、大学の講義では学べないことを多く学ぶことができました。この経験を通じて、保育の現場で働く時にも必ず役に立つと思えました。また一緒に活動してきた仲間と、それぞれが得意分野を活かし協力するというのも大切なことであるということ強く感じました。

(子ども研究会4年 学生)

実際にお誕生会をやってみると、始めは失敗ばかりでした。緊張して周りが見えず、進行が上手くいかなかった時もありました。しかし、スタッフの方の助言や参加されたみなさんのアンケートで少しずつ私達も成長できたと思います。お誕生会の最後の写真撮影など、そこで見る笑顔や保護者の方の「ありがとうございます。楽しかったです。」という言葉を聞くと、達成感と充実感を味わうことができました。企画・運営で悩みましたが、みなさんに楽しんでいただくことが私の目標だったので、やってよかったと本当に思う瞬間でした。この機会を通じて様々な事を学ぶことが出来ました。自分が楽しいと思わないと皆さんも楽しめないという事にも気づきました。大学の授業での勉強だけでは分からないことを実際の子どもの様子から学んだことが大きかったです。SHIPのお誕生会で学んだことを忘れず、これからも成長していきたいです。

本当にありがとうございました。(子ども研究会4年 学生)



皆様のご協力に感謝し、学生たちの今後の活躍を共に心から願いたいと思います。

どんな花を咲かせてくれるのでしょうか

梅や桃の木が毎年変わらない紅白の花を咲かせ香りを漂わせ、私たちを楽しませてくれていました。桜の木もまた蕾を大きくふくらませ、開花の時期を待ちわびる頃となりました。

土の中には、4月の入園の時期に合わせて秋に植えたいろいろな球根が、しっかりと養分をたくわえ春の開花を準備しているのではないのでしょうか。

毎日、SHIPには多くの赤ちゃんたちが遊びにきてれています。

将来、SHIPの子ども達が進んで大人になるのか、どんな花を咲かせて楽しませてくれるのか、今から楽しみです。肥料を与え過ぎず、水分や光も適度に与えながら、持って生まれた“そのらしさ”を育てていきたいものです。

人は一生をかけて人として成長していくものです。子ども時代を充実させて、しっかりと根っこを作り、たくましく育ってほしいですね。

1本の木、1本の草花、1本の球根に託された命は、それぞれ違う役割があります。

人と一緒、同じではなく、その子本来の育ちを急ぐことなく、少し先の将来を見つめながら子育てを楽しんでほしいと願っています。



～シンガポールからのぱぱごと通信～

『1年たちました』NO.45

H.Aさん

お陰さまで家族でコチラに赴任して無事1年を迎えようとしています。「ぱぱ」の仕事の都合で皆が移動することになったのだから父親として、夫として不安定な家族を支えるのは自分しかいないと強烈に自覚した1年でした。と同時に子どもってなんて遅いのだろうとも思わせてくれました。

今までの日本の保育園からローカルの幼稚園に移って友人も先生も英語と中国語。園庭を走り回っていた所から1日中部屋で勉強する所へ。食べ物だって日本食を好きなだけ食べられる訳じゃない。でも子どもなりに「生きていく」「楽しむ」という点において、とてもサバイバルしています。ほんと、感謝です。(SHIP 会員)